

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391600133		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホーム 向の山		
所在地	名古屋市天白区向が丘三丁目1710番		
自己評価作成日	平成31年 1月15日	評価結果市町村受理日	令和元年 5月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391600133-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2391600133-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 2月 9日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所は「外出」「男の生きがい介護」をテーマとし、開設当初から力を入れて取り組んでいます。この2つの取り組みを軸として、施設に入ってもその人らしい馴染みの生活が送れるよう支援しています。  
 「外出」では、日常的に買い物・喫茶店・近くの農業センターなどへの外出、地域のお祭りや朝市へも出かけています。また、年に1回ご家族様参加型で一泊旅行を企画しています。昨年は知多へ皆で温泉に行きました。入居者様、ご家族様、スタッフの三者で宴会をしたり、イルカショーに見に行ったりと、旅行を通してさらに絆を深めました。  
 「男の生きがい介護」と称した「井戸掘り」や「畑仕事」は、どちらも地域の方と協力しながら取り組み、地域交流のきっかけとなっています。今年は、枝豆を利用者様と一緒に作り、夕食で皆で頂きました。これからもボランティアさんを巻き込みながら沢山の野菜を作っていきます。入居者様の毎日が『生きがい』を感じて頂けるように、スタッフ皆で日々、『どうしたら出来るか』を考え、支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

新興住宅地の一角に開設して10年ほど経過したホームで、1階をグループホーム、2階を小規模多機能事業所として運営している。訪問直前に近隣系列事業所間で管理者の交代異動があり、管理者としては、新ホームに慣れない中での受審となった。  
 過去から、外出支援を最優先にした取り組みが続いており、毎年実施される秋の旅行には家族の参加も得て、利用者と家族の絆を強固にする施策を続けている。ホーム入居後も今までの生活の延長で、利用者の自由と生甲斐を尊重する取り組みに注力している。  
 周辺の農地を借りての畑仕事で季節の野菜を作り、食卓に彩りを添えている。利用者には役割を持たせ、周りから必要とされる事で生甲斐を感じ、残存機能の維持を大切にしている支援に繋げている

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・『あなたのままで、そのまま』という理念を定め、利用者様が自分らしく過ごせるように、理念の読みあわせ、ケアプランの確認を行っている。	法人理念の「幸せな社会づくり」に加えて、ホームの理念である「あなたのままで、そのまま」の意識向上のため、毎月、支援内容が理念に沿っているかを確認し、自己診断する機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・利用者と買い物や散歩に出かけ、地域の方とコミュニケーションをとっている。 ・「こども110番の家」として地域を見守っている。 ・地域イベントの情報収集をし、毎月参加するように取り組んでいる。	管理者は地区の消防団に加入して地域防災に貢献しており、防災訓練に際して団員の協力が得られ、充実した訓練が行われている。中学生の職場体験受け入れや、保育園児へのハロウィンお菓子配りも続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・掲示板にて、施設の活動内容を載せ周知している。 ・定期的にイベントを開催し、地域の方との交流の場を作っている。 ・ブログで認知症の方との関わり方や日々の様子を記事として取り上げ、地域の方に広く伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・毎回、会議にて事業所の活動報告を行っている。参加していただいている(地域の方・福祉関係者・ご家族様など)方から、事業所の運営などに対しての意見を頂き、施設の運営に活かしている。	近隣の系列事業所合同で偶数月に行政・地域代表・民生委員・知見者を招いて運営推進会議を開催している。合同開催方式を採ることで、事業所ごとの比較ができることや、区福祉課員の毎回出席に繋がっている。	評価調査受審実績や目標達成計画策定時には議題に取り上げ、進捗状況の報告を行うことを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・会議に参加して頂けるように施設の代表者が天白区職員へ地域運営推進会議への参加を依頼すると同時に、情報の共有を行いながら協力関係を築いている。様々なご意見を頂き、活用させて頂いている。	運営推進会議には毎回区福祉課担当者が出席していることや、区主催の福祉まつりには法人として協賛し、認知症介護の要点や施設紹介を行っていることから、相互の連携と良好な関係構築がうかがえる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・入社時研修・定期的な施設での研修にて、「介護保険法指定基準における禁止の対象となっている行為」について学ぶ機会を設けている。 ・拘束になりそうな場面がないか、スタッフ同士でミーティングにて話をしている。	身体拘束廃止委員会を設置し、禁止事項の確認と意識統一を図っている。玄関扉・内扉は開放されているが、必要最低限の施錠は行っている。言葉による拘束、投棄による弊害についても職員同士で注意しあい、協力医の指導でよりよい支援を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・入社時研修・定期的な施設での研修にて、「虐待防止」を組み入れ学んでいる。 ・スタッフの仲間と現状のフロアの介護について向き合うことで新たな改善点を見つけることが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・施設内にも利用している方がみえる為、基本的な知識は学んでいる。またミーティングで話し合い、勉強する機会を設けている。不明な点はスタッフ同士で共有し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時には契約書関係の読み合わせを行い、細部まで納得して不安なく利用ができるよう、2時間程時間をかけて丁寧な対応を心掛けている。 ・資料を準備し必要時には説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・普段からご家族が来所された際にはスタッフと相互に情報交換を行っており、ご意見を頂いている。 ・「来訪者box」や「社長直行使」で意見を頂けるようしており、即座に話し合い対応している。またカンファレンスで、ご家族からの聞き取りを行っている。	ホーム便りで近況を報告し、家族来所時に意向や要望を聞き取っている。介護計画更新時には詳細に話し合い、利用者最善に努めている。意見箱「社長直行使」の設置があり、直接社長に意見できる仕組みがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・面談にて意見や提案が出た際には、出来る方法を考え、対応するようにしている。 ・各ミーティングでスタッフの意見をまとめ、スタッフの意見について協議をしている。 ・全スタッフの意見を聞き、運営方針を決定している。	定期的に職員面談を行っており、意見・要望を聞き取っている。職員の要望から退職金制度が発足し、モチベーションが上がり、働きやすい職場作りにつながった。「全員で外食を」の職員提案も実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・半年に1度個人面談を行い、自己目標を設定し、向上心を持てるようにしている。 ・月に1回、上司または管理者は職員と話をする場を設けるようにしている。介護職員が不安なく、前向きに働けるように話を聞き解決に向けて取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・本人が興味を持っている研修に関してはバックアップする仕組みが出来ている。 ・中途職員・新卒新入社員に対して、モチベーションやスキルアップを目的とし先輩社員と1対1で向き合う取り組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・ケアマネージャーの研修に参加をしている。 ・地域包括支援センターに情報を提供・また共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービス開始前からご利用者様・ご家族様の不安や希望等を傾聴し、可能な限り直接会い、安心・納得できるよう努めている。 見学に関してはいつでも対応できるようにしている。 ・パンフレットを常に玄関・事務所に置き、タイムリーに対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前から話を傾聴し、ご家族やご本人のニーズを引き出した上で関係づくりに配慮している。 ・不安な点に関しては現場スタッフと協議をし、事前にお伝えし、安心して利用できる環境を作るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・面談の際に、ご本人様のニーズが何なのかを明確にした上で、当施設以外のサービスがご本人・ご家族にとって必要な場合は、他のサービス利用が行えるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・決めれる事は一緒に決めるように支援している。 ・毎日一緒に洗濯・炊事などを手伝って頂いている。 ・4大レクでは入居者・ご家族さまの希望を聞き、内容を決めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・季節レクの際には、ご家族様から意見を頂いて企画を立案している。 ・外食、喫茶店、梅を見に行く際などは、ご家族様をお誘いし、参加可能なご家族様と出掛けている。 ・来所の際、時間帯により食事をお誘いし、食事内容やADLを直接見て頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご本人の馴染みの生活を第一に支援を行っている。 ・馴染みの生活の重要性を契約前にご家族様に説明している。 ・馴染みの習い事・特技・趣味などがあれば、その内容のレクリエーションに参加できるようにしている。	外出支援でドライブに出かけた際に、常には意向の表明の薄い利用者が、昔の記憶を蘇らせて溢れるほどの笑顔となった。家族の協力で墓参りに行ったり、市民楽団のコンサートに行く利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・フロアの利用者様同士が皆で楽しめる支援を考え、実践している。 ・朝昼夕の申し送り、当日の入居者の心身状況を共有し、タイムリーな人間関係の調整を行っている。 ・必要に応じた席替えにより、対人トラブルを防止している。必要時に介入する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用終了となったご家族に対し、手紙を送らせて頂いたり、入居者の写真やアルバムをお渡ししたりする等の配慮をしている。 ・ご家族からの要望・不安に迅速に対応する。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・カンファレンスでご家族の想いを聞きとった上でケアの方向性をフロアにて検討している。また聞き取った内容を現場スタッフに情報共有をし、実際の介護に役立てている。必要に応じて個人ノートを作成し、より細かな情報共有に努めている。	日々の支援の中で利用者に寄り添い、会話や声掛けに対する反応で、思いや意向の把握に努めている。家族から聞き取った生活歴やベテラン職員からの情報から、利用者最善を考えて笑顔に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・カンファレンスの際に、ご家族様から利用者様の情報を聞き取り、利用者様の支援に活かすように努めている。またミーティングにて利用者様への気づきを共有し、その人の馴染みの環境を全員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・スタッフ同士の申し送りにて、利用者様の変化をタイムリーに共有している。 ・観察メモを用い、本人の変化を観察し、日々把握できるように努めている。上記内容をフロアミーティング等で話し合い、情報の伝達と話し合いの場を設けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族様、関係業者から馴染み等を聞き取り、本人の生活が更に良くなるケアプランを作成している。 ・カンファレンスを定期、または必要時に行う事で利用者様の現状に即したプランの立案を行っている。	介護計画の見直しは半年毎に行うことを基本とし、利用者の生活がより良くなるための支援を、カンファレンス、モニタリングを実施して作成している。職員全員の共有にするため、介護記録の改善を継続している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日頃の記録にて利用者様の変化・気づきを記載している。また必要な際にはフロアミーティングにて、入居者に対して個別ケアを検討、実践している。 ・観察メモを用い、個々の入居者に焦点を当て、スタッフ同士でケアを再確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご利用者様の状態に合わせて、都度要望されるサービスを提供できるよう取り組んでいる。 ・『小旅行』として、ご本人の馴染みの場所へ一緒に行ったり、ご家族様の要望を叶える企画を立案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事である梅祭りや夏祭りに参加している。</li> <li>・週に2、3度ボランティアの方が来所して下さり、レクリエーションを行い、入居者の楽しみにもなっている。</li> <li>・施設周りを散歩していると地域の方が声を掛けて下さる。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の病院にかかる際には、ホームDrと相談のもとご家族に提案し、情報提供書を作成の上で希望された場所へ行って頂いている。</li> <li>・事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるようにしている。</li> </ul>	協力医の往診が月2回あり、看護師は毎週、利用者の健康状況の報告をして連携している。入居前のかかりつけ医の受診希望もあるため、情報提供等の協力や、意向に沿った受診ができるよう医療環境を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力医療機関のDrが2週に1度、看護師が週に1度来所し、利用者の状態の把握に努めている。</li> <li>・職員は利用者の日々の体調面の状態を記録に残しており、気づいたことがあればすぐにDrに対して連絡、相談を行っている。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時には利用者様の情報提供を行い、退院時には退院調整看護師の方と連絡を取り合い、ご家族様を交えカンファレンスを行っている。</li> <li>・日頃から、病院のケースワーカーと頻りに情報交換を行っている。</li> </ul>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居の際に重度化・終末期に対する指針をお伝えしている。その後は入居者の状況に応じて、医師を交えながら、ご家族様と重度化に伴う支援の方針を話し合っている。</li> <li>・スタッフともこまめに『緊急時の対応』に関して情報共有を行うようにしている。</li> </ul>	入居時に綿密な説明と話し合いをし、同意を得ている。看取りを行なえるホームの体制はできており、医療行為が発生する前には、家族の意見を尊重して協力医・職員ともに利用者最善を考慮し対応している。	看取り支援を希望する利用者はいないが、看取り体制が可能であり、研修や勉強会の継続による今まで以上の支援の質の向上を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「応救手当マニュアル」「緊急時の対応マニュアル」を事務所に備え、定期的な研修を行っている。</li> <li>・年次計画に沿って全体ミーティングやフロアミーティングで学ぶ機会を設けている。</li> </ul>		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時マニュアルを掲示してスタッフ間でも共有、シミュレーションにて意識付けをしている。</li> <li>・地域の消防団と避難訓練を実施し、災害時の対応を学ぶ場を設けている。またミーティングで夜間の対応をマニュアルに沿って話し合っている。</li> </ul>	年2回火災を想定した避難訓練を実施しており、利用者を毛布に包んでの避難など、実践的な訓練を行っている。管理者が地域消防団に加入しており、消防団員も参加した初期消火訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>『人格・尊厳』を守り、丁寧な対応を心がけている。</li> <li>契約時に個人情報の利用に関する同意書に承諾を頂いている。また職員は入社時に説明を受け誓約書に承諾している。トイレや居室のドアを必要時以外は閉め、個人の空間を大切にし、トイレ誘導の声かけ方法を工夫している。</li> </ul>	<p>人生の先輩として敬意を払い「さん付け」の呼びかけが基本である。居室やトイレなどの扉の開閉には特に気を配り、利用者の驚きや羞恥心に配慮している。排泄の誘導時には、言葉遣いにも気を配っている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の生活の中で食事内容や着たい服、外出など本人の希望を聞いて、本人がやりたいことをして頂けるように対応している。</li> <li>意思表示が困難な入居者には「はい」「いいえ」で答えられる質問をし自己決定がるように心掛けている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>「散歩したい」「買い物に行きたい」等、ご本人から訴えがあれば、安全に配慮しながら支援している。</li> <li>本人が参加したいレクリエーションがあった時には参加して頂いている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かるご利用者様には着たい服をご本人に確認し、対応している。</li> <li>一緒に買い物に行き、着たい服を選んで頂く。</li> <li>外出の際には身だしなみを整えて頂き、楽しさを増やせるように支援している。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事に作りでは個々に合わせて、出来ることを手伝って頂いています。調理参加困難な方は味見等で参加して頂いている。</li> <li>季節に合わせて、旬な食材を使い調理を行っています。</li> </ul>	<p>職員が交代で献立作り・調理を担当している。利用者は、食材の買い出し、野菜の皮むき・カット・混ぜ・炒め等に能力に応じて参加している。菜園で収穫した野菜も彩りを添えており、潤いある食事を提供している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々に合わせた対応を心がけている。</li> <li>1日30品目摂取を心がけ、献立を考えている。</li> <li>月1回体重を量り、食事を調整している。</li> <li>1人ひとりの嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。水分量は随時測定し対応している。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎食後、入居者の状況に合わせ、見守りや一部介助、全介助などの支援を使い分けて支援している。</li> <li>拒否がある方へは、歯科医師と相談したり、スタッフ間で情報共有しながら常に清潔保持に努めている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なるべく自立でトイレが出来るように安易にオムツやリハビリに頼らず支援するようにしている。</li> <li>・排泄チェック表を用いて定期的にトイレ誘導を行い、排泄リズムやパターンを把握している。また、ミーティングにてその人のADLや思いに沿った個別のトイレ介助方法を検討し、実践している。</li> </ul>	<p>意思表示のできる利用者の支援は見守りで、表明できない利用者には排泄チェック記録から、早めの誘導で、失敗しない支援に努めている。リハビリ利用者もいるが、多数が布パンツである。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日排便状況を把握し、随時Dr・ナースに相談し、取り組んでいる。</li> <li>・個々に合わせて原因の対策を考え、取り組んでいる。活動量を増やしたり、ヨーグルトや牛乳を提供することによって便秘の軽減を図っている。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々が「入浴したい」と感じる時に入浴が出来るように取り組んでいる。</li> <li>・入浴時には1対1のコミュニケーションを大切に、楽しんで頂けるように心がけている。</li> <li>・入浴中に音楽を流したり、入浴剤を使ったり等、利用者に合わせて楽しみを増やしている。</li> </ul>	<p>週2～3回の入浴を基準としている。浴槽を跨げない利用者はシャワー浴となるが、浴室内温度の調節や足浴の配慮がある。日々の記録はタブレット端末で管理しており、3日以上無入浴とならないようにしている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心した生活ができるようになじみの物や本人の生活リズムに合わせて過ごして頂いている。</li> <li>・ダウンライトを活用し、照明加減を入居者に確認し、対応している。また寝付けにくい利用者に対しての支援方法を、ご家族やDrを交えて話し合っている。また安眠に繋がるよう日中の活動も考えて対応する。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・往診や受診後薬情をファイルに保管し、スタッフ間で共有を行う事が出来ている。</li> <li>・個々人の症状に合わせて、Drや薬剤師に相談しながら、副作用の確認や服薬し易い方法を工夫している。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者様に合わせて、楽しみごとを提供している。</li> <li>・生活を送る上で必要な作業(掃除・食器洗い・ゴミ捨て等)は役割を決めて全員で取り組んでいる。</li> <li>・ピアノを毎日ひかれていたり書道を楽しみに取り組んでくれる方などがある。</li> </ul>		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の要望に合わせて買い物や喫茶店などの外出支援を日常的に行っている。</li> <li>・本人の夢を叶える為に『小旅行』をご家族と協力しながら計画し、利用者様の視点に立った支援を行っている。</li> </ul>	<p>近隣への散歩は日常的に行われている。週3回の食材の買い出しには希望者を募って引率し、喫茶店好きの利用者には日を決めず随時引率している。年間計画で小旅行の企画が立てられ、家族協力の下、利用者との馴染みの場所に出かけた。</p>	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物や喫茶店にて自身で支払いをして頂いている。また所持が可能な方には所持が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・フロアに電話置いており、常時入居者が自由に使える環境がある。 ・手紙や年賀状を出される際には、分からない部分を対応させて頂き、自身の力で出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・庭に面した縁側で、季節の移ろいを感じながらお茶を飲む等、皆で楽しめるよう支援している。 ・フロアは暖色系の照明を設備し、居心地良くしている。また馴染みの畳屋や障子を使用している。 ・1日1回は掃除を行い、常に清潔な環境を意識している。	交通量の少ない住宅街に所在しているため、採光も良く、不快な騒音・振動は感じられない。壁面には利用者の作品が、階段には外出時の写真が所狭しと掲示されており、職員が工夫して季節感を醸し出す飾り付けを加えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・縁側にてくつろいで過ごされている方もみえる。また家族控室など自由に使える空間がある。 ・玄関先やデッキのベンチにて、フロア以外でもくつろいだり、話をしたりできる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人様の馴染みの物を大切に支援している。 ・入居時に、馴染みの道具を持ってきてもらえるようにご家族に協力を依頼している。 ・思い出ボックスに馴染みの写真や作品を飾り居心地を良くできるように環境を整えている。	当初は畳敷き・布団ダンス設置が基本だった居室は、フローリング床に変更されたり、布団ダンスを撤去した部屋が多い。居室入口には「思い出ボックス」と称したガラス張り表札が設置され、思い出の品が置いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・掘りごたつに座る、電気を消す、障子を開ける等の動作を日常的に行い、残存能力を活かせるようにしている。浴室も自身で入り続けられるようにバリアフリーになっている。		